

# 北 彩 紀 行

総務部 主事 三瓶 美和子  
岐阜分室 主事 鷲見 昌子

7月初め、まだ明け切らぬ梅雨空の下、私たちは津軽半島を流れる岩木川を訪ねるべく青森の地に下り立ちました。

岩木川は白神山地の雁森岳にその源を発し東に下った後、弘前付近で北へ向きを転じ津軽平野に流下、その後平川、浅瀬石川、十川等を合流し十三湖を経て日本海に注ぐ、幹川流路102km、流域面積2,450km<sup>2</sup>の一級河川です。

その流域には、この川の恩恵を受け無数の営みを育み続ける津軽平野や、十和田八幡平国立公園、津軽国定公園をはじめ5ヶ所の県立自然公園があり、岩木川がこの地方の社会だけでなく、経済や文化の基盤をも担っていることがうかがえます。



「十三湖大橋」



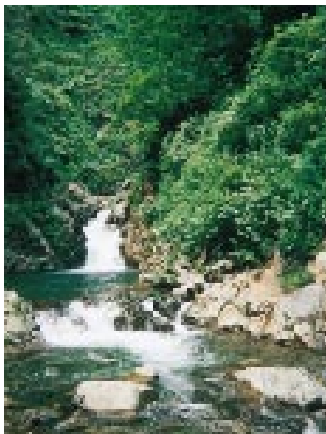
「十三湖水戸口」

まず私たちは、全長102kmにわたる岩木川の最終地点である十三湖を訪れました。十三湖は津軽半島の北西部に位置し、その優美な姿から別名「琴湖」とも呼ばれています。ここは岩木川を初め山田川、鳥谷川などが流れ込む青森で3番目に大きな汽水湖（常に適度な海水が流れ込んでいる湖）で、東西7km、南北5km、面積が20.8km<sup>2</sup>あります。

淡水魚や海水魚が生息し、その他にシジミ貝の産地としても全国的に有名で漁業が盛んに行われています。岩木川が水戸口から日本海に注ぎ込む様子は十三湖大橋からのぞ



め、その雄大さ、穏やかさを体で実感することができました。そうして遠く日本海を見渡していると、いつもは喧しい時間の流れがだんだんと穏やかになり、心が安らいでいくような気がして、私たちはしばらくその風景に見入っていました。



「白神山地風景」

しく管理、保護がなされています。その深い緑に覆われたこの滝は、高さ37mの一の滝、同じく高さ37mの二の滝、そして26mの三の滝の三段からなる白神山地の名勝の一つで、春から秋にかけて素晴らしい森の息吹や、豊かな水量を披露してくれます。実際、滝までの道中、私たちは澄み切った水が涼しさを誘うように流れているのや、水の浸食による荒々しい渓谷美に足を止めずにはいられず、何度もカメラのシャッターを押していました。

そうして、彼等のその生来の美しさに心を癒されながら山道を歩くこと40分、岸壁の隙間に目指す滝が現れました。その流れ落ちる水は至極繊細で、とても神秘的な印象を受けました。その周辺のブナや松の老樹の有りのままでありながら完成された風景も、このような思いを抱かせるのに一役かっていたかと思えます。

こうして流れ落ちた清水は老木の間を下り、津軽の水瓶である目屋ダムの貯水池、美山湖へと流れ込み、やがて、津軽の地に水の恵みを運ぶのです。

この取材中、折悪しく、緑も天候も今一歩私たちを満足させてくるものではありませんでした。しかし、もうしばらく経てば、津軽も一番の観光シーズンを迎えるそうです。またいつかその時期に、岩木川や白神山地、十三湖などに再会できることを願いつつ、私たちは東北の地を後にしました。



「暗門の滝」